

科目名	マクロ経済学 II	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Macroeconomics II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	はたけやま あきのぶ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	畠山 光史	修得単位	2単位
授業のテーマ	マクロ経済学への入門授業です。		
到達目標	学生は、マクロ経済学の基礎概念および基本的な分析手法を習得できる。		
授業概要	本授業では、マクロ経済学の考え方のうち重要概念である労働市場、総需要・総供給、インフレーション・デフレーションおよび失業について学習し、これらの知識を前提として「物価変動」を考慮した場合のマクロ経済政策効果を分析します。		
授業計画			
第1回	イントロダクション		
第2回	物価と総需要1(総需要曲線)		
第3回	物価と総需要2(物価水準の変化および経済政策の効果)		
第4回	労働市場と総供給1(古典派の総供給曲線)		
第5回	労働市場と総供給2(ケインズ派の総供給曲線)		
第6回	AD-AS 分析1(総需要・総供給と経済政策の有効性)		
第7回	AD-AS 分析2(需要ショックと供給ショック)		
第8回	前半のまとめ		
第9回	物価変動と失業の社会的費用1(インフレーション)		
第10回	物価変動と失業の社会的費用2(デフレーション)		
第11回	物価変動と失業の社会的費用3(失業)		
第12回	フィリップス曲線1(物価上昇率と失業率の相関関係)		
第13回	フィリップス曲線2(期待で修正されたフィリップス曲線)		
第14回	フィリップス曲線3(裁量的財政政策・金融政策の再評価)		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください(1.5時間程度)。		
履修条件 受講のルール	マクロ経済学Iの単位修得を前提とします。		
テキスト	指定しません。		
参考文献・資料	吉川洋 「マクロ経済学(第4版)」 岩波書店 (2017) ブランチャール 「マクロ経済学(下)」 東洋経済新報社 (2000)など		
成績評価の方法	小テスト(20%), 定期試験(80%) ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・遅刻は欠席と同等に扱います。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。		
オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限とします。		

成績評価基準	2016年以降に入学した学生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 2015年以前に入学した学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	経済理論系の科目は、授業後の復習を行うとともにインターネット、テレビ、新聞、雑誌等で日本経済および世界経済のマクロ経済動向を積極的に把握するように努めることが重要です。